

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校 児童生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

京都市

事業名

支援の必要な児童生徒のための「支援機器・グッズ」を活用した支援推進事業

事業の経過・背景・課題

「通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（文科省、令和4年12月発表）での結果が示すように、京都市においても、知的発達に遅れないものの支援を必要とする児童生徒は年々増加しており、通常の学級や学校生活における支援が求められている。

読み書きの障害や集中すること、聴覚過敏等の様々な困難を支援・補完するための各種の「支援機器・グッズ」について、京都市では、平成30年度から学校・園への貸出を開始し、通常学級での合理的配慮や代替手段としての活用へつなげられるよう、その普及啓発に取り組んでいる。

各機器の機能は進歩しており、子どもたちにとってより最適な支援方法を研究・試行するとともに、「支援機器・グッズ」を活用した支援の普及・啓発をすすめることで、児童生徒の困りごとの軽減を図り、学校における合理的配慮の促進を目指す。

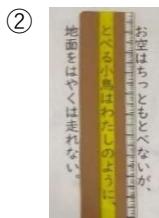
取組内容

交付実績額： 2,239 千円

○「支援機器・グッズ」4種類をLD等通級指導教室 120 校（小学校88校中学校32校）へ配備し、LD等通級指導教室の担当教員等を中心に貸出を実施

支援機器等名称・性能	対象	主な効果
①座位保持クッション (椅子に装着し、無理なく正しい姿勢を保持)	授業中正しい姿勢を保つことが苦手な児童生徒	・姿勢が安定し集中できる時間が増えた。 ・授業中の離席が減った。 ・落ち着いて座って学習に取り組むことができた。
②自助具(文具)セット(※) (様々な読み書きの困難を支援する文具類)	読み書きや細かい作業が苦手な児童生徒	ガイドライン付定規：文字が動いて見えるのが軽減され読みやすくなった。 ザラザラ下じき：鉛筆の操作がしやすくなり、枠内に文字が書けるようになった。 UDはさみ：切れ味が軽く、手に優しかった。 コンパス：中心がずれることなく、軽い力で円が描けた。
③デジタル耳栓 (環境音だけを9割近くカットし、声は聞くことができる)	聴覚過敏や周囲の雑音が気になり授業に集中することが難しい児童生徒	・一般的な耳栓よりも、騒音によるストレスは大幅に軽減された。 ・環境音が低減され、先生の声は聞こえやすくなり授業に集中できた。 ・教室がうるさく感じ入りづらさがあったが、教室に入ることができた。
④センサリーツール (椅子の脚に装着し、足裏に感覚刺激を与えることで集中しやすくなる)	集中しづらい、多動がみられる、姿勢が乱れる児童生徒	・姿勢が良くなり、集中して授業に向かうことができた。 ・足を上げる、鉛筆を噛む、頭を叩くといった行動が減った。
⑤ペン型スキャナー (読み上げてほしい箇所をなぞるだけで音声読み上げしてくれる)	読むことが苦手だが音声であれば理解しやすい児童生徒	・読めない漢字をスキャンして読みを確認することができるようになるなど、積極的に使用する姿が見られた。 ・それまで英語の学習に消極的だったが、意欲的に英文を読む姿が見られた。

※ガイドライン付定規、ザラザラ下じき、コンパス、バールーペ、白黒定規等9種



事業の成果・今後の展望等

○「支援機器・グッズ」をより多くの児童生徒が使用できる環境が整うとともに、学校現場の教員にとって、「支援機器・グッズ」がより身近な存在になり、通級指導教室担当者以外の教員にも普及・啓発が進み、学校における合理的配慮の認識が高まった。

○LD等通級指導教室設置校での貸出が多い状況であったことから、今後、周辺校においても貸出が活性化するよう、「支援機器・グッズ」の効果を更に周知していくとともに、一人ひとりの困りに最適な支援を行えるよう、最新機器の研究を進める。

問い合わせ先

京都市教育委員会指導部総合育成支援課（075-352-2285）

京都市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

校内サポートルーム（校内別室）整備推進事業

事業の経過・背景・課題

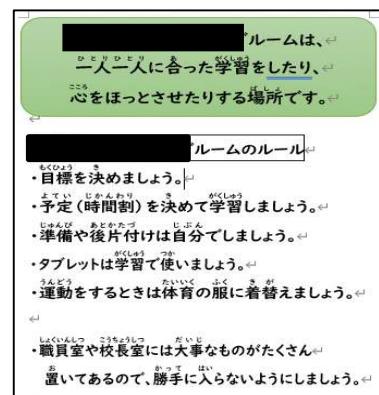
全国的に不登校児童生徒が増加する中、本市では、「京都市教育相談総合センター」での教育相談体制の充実はもとより、2校（洛風中学校・洛友中学校）の「学びの多様化学校（不登校特例校）」や教育支援センター「ふれあいの杜」5学習室の設置（令和6年度から3サテライト学習室を開設）、フリースクールとの連携等、子どもたちの実態を踏まえた居場所づくりの取組を先進的に進めてきた。

こうした中、令和5年3月に文部科学省が策定した「COCOLOプラン」が示されたことも踏まえ、本市においても、登校を望んでいる児童生徒が新たな不登校にならないよう、校内に児童生徒が安心して過ごすことができる「校内サポートルーム」の整備が喫緊の課題となっている。

取組内容

交付実績額： 11,213 千円

- 子ども支援コーディネーター配置校において、校内サポートルームの充実に向けた取組を実施
- 子ども支援コーディネーター配置校を対象に、校内サポートルームの充実に向けたアンケート調査を実施
- アンケート調査の結果をもとに、校内サポートルーム設置から運営等に係る工夫等を集約した事例集を作成



事業の成果・今後の展望等

- ・児童生徒からは、「家にいるより楽しい。」「他の生徒の存在を気にせず落ち着いて過ごせる。」「調べ学習でパワーポイントを使ってサポートルームで発表できたのが良かった。」「受験に向けての作文の添削や面接練習を担任の先生とできたので良かった。」といった声があった。
- ・教職員からは、「子どもたちが自分のペースで登校や学習ができるので、表情が柔らかくなったり、教室にいる人口数が増えたりした。」「支援コーディネーターの○○先生と一緒に～したいという気持ちが子どもたちに出てきたなど良い効果が表れてきている」といった声があった。
- ・各校において児童生徒の実態や支援体制を踏まえた取組が進んでいるところだが、本事例集を支援のヒントとして、取組の更なる充実を図る。

問い合わせ先

京都市教育委員会指導部生徒指導課（075-213-5622）

京都市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校 児童生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

ふれあいの杜拡充事業

事業の経過・背景・課題

本市では、不登校が長期化した子どもたちの活動の場として、教育支援センター「ふれあいの杜」5学習室を設置し、市立小学校4年生から中学校3年生を対象に、在籍校への登校を含む社会的な自立を目指した活動を進めているが、増加傾向にある不登校児童生徒への支援体制の更なる充実を図ることが課題となっている。

取組内容

交付実績額： 5,900 千円

- 市有施設等を活用し、3サテライト学習室（京都駅南・太秦天神川・醍醐）を開設
- サテライト学習室の開設日に職員を派遣し、通級生の自学自習、コミュニケーション力向上を支援

※活動曜日等（令和6年度）

- ・活動曜日 サテライト京都駅南：火・木曜 サテライト太秦天神川：水曜 サテライト醍醐：金曜
- ・活動時間 10時～12時、13時～15時の2部制（3サテライト学習室共通）
- ・入級定員 午前・午後それぞれ10名程度（3サテライト学習室共通）
- ・入級実績 サテライト京都駅南：10名 サテライト太秦天神川：2名 サテライト醍醐：4名



京都駅南



太秦天神川



醍醐

事業の成果・今後の展望等

- ・サテライト学習室の交通アクセスの良さが、子ども本人の通いやすさや保護者送迎の負担軽減につながった。
- ・閉校施設を活用したサテライト学習室では体育館も使用できたため、活動的な子どもたちの受け皿になった。
- ・乗り物酔いがひどくて学習室に通えなかった子どもが、歩いて通える距離にあるサテライト学習室に通うことができた。
- ・令和6年度の入級実績を踏まえ、令和7年度はサテライト京都駅南学習室の開設日を2日から4日に拡充するなど、取組の更なる充実を図る。

問い合わせ先

京都市教育委員会指導部生徒指導課（075-213-5622）

京都市

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校 児童生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

メタバースを活用した不登校児童生徒支援の実証事業

事業の経過・背景・課題

本市では、子どもたちが自分のペースで学習したり、交流できるオンラインの特徴を生かし、不登校児童生徒が続けやすいオンライン学習の在り方やオンラインからリアルな体験への接続について研究を進めるため、メタバースを活用した実証研究「オンラインの居場所」を実施する。

取組内容

交付実績額： 2,447 千円

- 希望する教育支援センター「ふれあいの杜」通級生等を対象に、実証研究「オンラインの居場所」を試行実施。
- オンラインフリースクールの実績のある事業者に業務委託し、民間企業の豊富な授業コンテンツを活用。
- ニーズ把握やより多くの子どもたちの意見を求めるために、年度途中から対象者を拡大。

※オンライン授業（毎水曜日）、セミナー等保護者向け企画（月1回）を実施（授業22回、セミナー等8回）

※指導要録上の出席扱い等への基礎資料として、参加状況や授業内容を記したレポートを在籍校に毎月送付

※体験活動への接続として、10月には、理科教育授業後、ふれあいの杜において京都市青少年科学センター校外学習を実施

（オンラインの居場所からの参加者：10名）

【月ごとの授業テーマ】

10月：理科教育

11月：防災教育

12月：プログラミング教育

1月：伝統文化教育

2月：消費者教育

3月：外国語教育



事業の成果・今後の展望等

- ・児童生徒…「人が目の前にいないので、緊張せず参加できた」「いろんな人の意見を知ることができた」など、回答者の約9割が「楽しかった」と回答があった。
- ・保護者…「久しぶりに同世代の子どもたちと話した」「授業内容等嬉しそうに話してくれる」など、回答者の約6割が「子どもに良い変化があった」と回答があった。
- ・令和6年度の成果を踏まえ、実施日の拡充、オンライン授業クラス数の拡充など、取組の更なる充実を図る。

問い合わせ先

京都市教育委員会指導部生徒指導課（075-213-5622）